帯笑園保存会会報

発行元　保存会事務局
発行責任者　鈴木 邦親
2015年　8月30日
No. 6

帯笑園をどう利活用するか

六月二十日に開かれた原地区連合自治会、コミュニティ推進委員会の合同研修会で、市教委文化振興課から帯笑園の今後の整備について「沼津市の庭園として整備し昔の帯笑園の面影を残しつつ、多くの皆様に訪れてもらえる新しい庭園を目指している。」と言うような話がありました。また、東側に計画されている道路の拡幅が終わる二十八年度までは園の整備は行わないということでした。

植松家の敷地は道路予定部分を除いて昨年のうちに市が取得を終え、植松家は別の場所へ移転しています。帯笑園の整備はまさにこれからという段階なのですが、帯笑園をどう利活用するのか、具体案がまだ固まっていません。

―　市当局の利活用についての考え方　―

保存会では、昨秋、地元選出の市会議員の方々にお骨折りいただき、市の考え方を聞いていただく機会を得ました。その段階では、①多くの利用を図るため週五日程度開園する②園庭は一日中開放する③トイレ、駐車場を除いて特別な施設整備はしない④植松家の貴重な資料は展示できない、というのが市の方針でした。

しかし、これでは帯笑園の樹木や草花の適切な管理は困難で、これまで保存会が行っている、庭を案内しながら色々な説明をし、帯笑園の歴史や文化的な価値を知ってもらうような利活用の仕方など期待できません。

―　帯笑園の歴史と文化をもっと知って！　―

帯笑園については、沼津市史編さん事業が始まった昭和五十年代から植松家に伝わる貴重な資料の調査研究が進められ、一部は市史叢書『原植松家日記・見聞雑記』として刊行され注目されました。平成七年三島市佐野美術館で『植松家と文人墨客展』が開催され、植松家の旧蔵美術品の全容が知られるところとなりました。この展覧会を見た千葉大学(当時)の小野佐和子先生が帯笑園に関する研究論文を発表し、帯笑園が広く世に知られる契機となりました。こうした中で発足した帯笑園保存会は、原地域の宝である帯笑園の保存運動に乗り出し、その取組みの成果として沼津市による保存が実現しました。

―　地域の宝＝帯笑園の価値をどう活かすか　―

こうした経緯から、市で取得した帯笑園を単なる遊び場や広場として利用するのでは意味がありません。江戸時代に東海の名園と謳われ、様々な人々が立ち寄った交流の足跡や資料が豊富に残され、国の登録文化財として登録された帯笑園の歴史的、文化的価値を地域の宝として利活用するのでなければ、宝の持ち腐れになってしまいます。

肝心なのは、宝である帯笑園をどう活かすかということなのです。帯笑園にふさわしい活かし方をみんなで考え合いましょう。

―　帯笑園の管理運営をどうするか　―

利活用のあり方と表裏一体の管理運営の方法についても、保存会だけでなく地域の幅広いご意見を伺い、共に考え合っていきたいところです。先の定時総会では保存会の**ＮＰＯ法人化を目指す**ことを決定しました。法人化しなければ、帯笑園の管理運営が地元の手を離れてしまう心配があるからです。保存会の体制を強化し、運営を担っていけるようにしなければなりません。

地域の宝としての保存・整備を期待していたのに、縁も所縁もない団体や企業に管理運営が任されたなら、何のための保存運動だったのかということになります。本年度の重要課題として保存会のＮＰＯ法人化に取り組みます。皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

帯笑園のサクラソウのその後

NPO法人浮島沼自然・里つくりの会理事長の鈴木昌宙さんは、浮島沼原生のサクラソウを殖やして野生に戻す試みに取り組んで来ました。種々の工夫を凝らしながら五年がかりで努力された結果、狩野川西部浄化センターの遊水地の周りに見事なサクラソウの花畑が出来上がり、今春は一般公開も実現し、NHKの放送や新聞で取り上げられ話題になりました。鈴木理事長にこれまでの取り組みの経緯と今後について、お話をお伺いしました。

一〇年ほど前に、NPO法人「浮島沼 自然・里つくりの会」顧問の多田三夫氏から「浮島沼産のサクラソウ」を五芽いただきました。入手先は、帯笑園で毎年サクラソウの展示をしていらっしゃる真野契子さんなので素性は確かでした。これを四年間で二〇〇芽ほどに殖やすことが出来ました。

コウホネ

ヒツジグサ

ミズバショウ

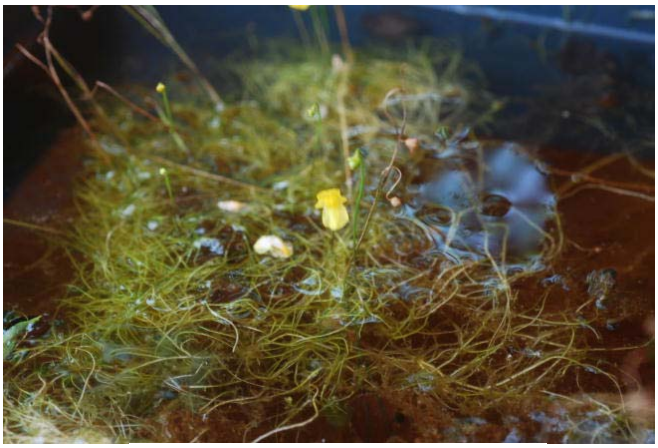
真野契子さんは、沼津市石川の森良仙(よしのり)氏の娘さんです。森氏は、愛鷹山や浮島沼の植物についての造詣が深く、最後に野生のサクラソウを見たのは戦後間もない頃で、富士市船津下のヨシ原の中だったと言います。森氏は、帯笑園の第十一代当主だった故植松重雄氏との親交が厚く、コウホネ、ヒツジグサ、ミズバショウなどを植松氏から譲り受け、今も愛情深く栽培しており、自らも湿性植物を採集、保護しています。今年、その森氏から氏が大事に守り育てていたイトキンポウゲとタヌキモを株分けしていただきました。

イトキンポウゲは昭和三十年頃に富士市船津下のヨシ原の淵で採集し、タヌキモはヨシ原の中にあった堀池で採集したといいます。

今ではあまり利用されることはありませんが、ヨシは農家にとっては、敷き草や堆肥として利用する大切なものでした。ヨシ原は良く管理されていたので、サワトラノオやノウルシなどが生息し、水辺もきれいに掃除されていたため、コウホネやミツガシワなどが生息していたのではないかと思われます。

タヌキモは昔、浮島沼にもあったようですが、今は浮島沼で確認しているという話は聞いていません。また、イトキンポウゲは、群馬県や福島県の方に自生しているようです。静岡県のレッドリストには見当たらない種なので大変興味があります。

さて、市内で貴重な湿性植物の保護に適した場所としては、衛生プラントのアクアプラザ遊水池があります。しかし、ここには伊豆縦貫道や箱根中腹から先で国道一号線につながる東駿河湾環状道路のジャンクションが予定されていますので、植物にとって安住の地ではありません。女鹿塚自然公園の計画は立ち消えで、今や浮島の貴重な植物の運命は風前の灯火です。



タヌキモ

イトキンポウゲ

そこで、順調に芽数を増やしてきた浮島産サクラソウを野生に返す終の棲家を狩野川西部浄化センターに求めました。この遊水池は二ヘクタールほどあり、池のまわりは、二〇メートルほどヨシが生い茂っています。狩野川西部浄化センターのご理解で、ここにクラソウの畑を作らせてもらっています。

五年前に第一圃場を作り、色々の条件を変えてサクラソウを植えてみました。このあたりは野生のシカが出没します。葉を食べられることはなかったのですが、株を踏まれる被害に遭いました。又、湿気が多過ぎるのか生育が思わしくありません。

ここで得た知識を基に第二圃場を作りました。三〇センチほどの畝を立ててサクラソウ植え込みました。すると、ここではご機嫌に育ち、四年目の四月には会員で花見の茶会を行いました。五年目の今年は、狩野川西部浄化センターのご厚意により一般公開が出来ました。

「やはり野におけ蓮華草」という言葉がありますが、鉢植えのサクラソウは可憐で美しいのですが、野に咲く大株のサクラソウは、迫力のある美しさで見る人の目を楽しませてくれました。

狩野川西部浄化センターは入所許可がなければ入ることができません。来年は４月９日（土）に一般公開の予定だそうです。
皆さん、お楽しみに。

（ＮＰＯ法人「浮島沼自然・里つくりの会」理事長　鈴木　昌宙（まさひろ））

平成27年 家康公四百年祭

第五十六回全日本花いっぱい静岡大会で

帯笑園が紹介されます。

とき　平成二十七年九月十九日(土)～廿一日(月・祝)
ところ　静岡市駿府城公園内　辰巳櫓

徳川家康ゆかりの静岡市で開催される全日本花いっぱい大会では、今年が徳川家康の没後四百年にあたることから、駿府城公園で趣味の園芸フェアなどが開催されるのと合わせて、辰巳櫓では「家康公ゆかりの園芸展」が催されます。江戸時代に的を絞った園芸を語る上で、帯笑園の植物コレクションを抜きにはできないということで、植松家と本会に開催に対する協力依頼がありました。マツバランなど伝統園芸植物の展示紹介にあわせて植松家所蔵品も展示されます。入場無料ですので、ぜひお出掛けくださるようお勧めいたします。

会場では、帯笑園のパネル展示も行われますが、県外・市外から訪れる皆さんに帯笑園について詳しく知ってもらうため、新たに発行する『帯笑園案内』改訂版を購読してもらうことを計画しています。

毎月開催している帯笑園見学会でも『帯笑園案内』の購読を参加者の皆さんにお勧めしていますが、この機会に改訂版を発行することにしました。

多くの方々に購読していただき、帯笑園に対する理解を深めていただきたいと願っています。

帯笑園見学会の日程について

『広報ぬまづ』に見学会開催案内の掲載を依頼してきましたが、最近では「紙面の都合で」掲載されないことが多く、広く市民の皆さんにお知らせできない状態で困っています。原地区の皆さんにはコミュニティだより『ふるさと』でお知らせしていますが、それ以外の皆さんにはコミのホームページを閲覧していただくしかありません。コミのホームページのURLは、http://hara-community.jimdo.com/です。ホームページの「新規ページ」からカラー版の会報も閲覧できます。

ちなみに見学会の日程は、左のとおりです。

日程・申込み先

九月十三日、十月十八日、十一月二十九日、十二月十三日、二月十一日、三月二十日（いずれも日曜日の午前十時から十二時）十分前までに原浅間神社前にお集りください。参加申込みは事務局担当大澤副会長の携帯電話（〇九〇―六七六一―三二六七）まで、平日の午前九時～午後五時受付

十三夜の月を愛でながら聞く『薩摩琵琶演奏会』を催します。

とき　十月二十四日（土）　午後七時～八時
ところ　帯笑園の臨春亭前　（雨天中止です。）
入場無料　先着五十名まで

（申し込みは見学会同様に携帯電話で事務局担当まで）

演者は、錦心流薩摩琵琶全国一水会静岡支部教師　久保田湖水先生です。御子息の県職員　豪氏は帯笑園ゆかりの伝統園芸の紹介に関わり、今回の演奏会開催にご協力いただきました。

錦心流は薩摩琵琶の流れで、明治時代に東京に伝えられた薩摩琵琶が、江戸の芸能の影響を受け親しみやすく改良され、大正から戦前にかけて大流行しました。